

「大学入学共通テストの導入に向けた試行調査」の結果を受けて

数研出版編集部

	共通テスト試行調査				2018年センター試験(本試験)			
	平均 正答率	問題 ページ数	大問数	小問数	平均点	問題 ページ数	大問数	小問数
現代社会	51.4%	30頁	5	23	58.22	33頁	6	36
世界史B	52.8%	41頁	6	36	67.97	24頁	4	36
日本史B	48.7%	36頁	6	31	62.19	31頁	6	36
地理B	51.2%	40頁	5	30	67.99	31頁	6	35

2017年11月に「大学入学共通テストの導入に向けた試行調査(プレテスト)」が国語、地理歴史、公民、数学、理科で実施された。同年12月には結果速報、翌年3月には結果報告が公表された。本稿では、試行調査の地理歴史・公民の概要等をまとめた。

実施科目・試験時間

地理歴史・公民の試行調査の実施科目は「現代社会」「世界史B」「日本史B」「地理B」の4科目で、「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」「世界史A」「日本史A」「地理A」は今回の試行調査の対象外であった。試験時間は、4科目ともにセンター試験同様60分である。

問題形式・問題数などについて

結果報告によると、試行調査の作問にあたり、「大学入試センター試験に関する既存のデータでは蓄積されていないタイプの問題に関する解答傾向等のデータを集めることを重視」するとともに、「探究の過程等の設定(授業において生徒が学習する場面の設定や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面の設定、資料やデータ等を基に考察する場面の設定など)を通じて、知識の理解の質を問う問題や思考力、判断力、表現力を発揮して解く問題を、各科目における全ての分野で重視し、「各分野における問題のイメージをまんべんなく網羅することや、一定の問題数を維持することなどが必要であることから、解答に従来よりも時間がかかることを想定しつつ、問いの並べ方などにも留意しながら作問」したとのことである。

具体的には、例えば「現代社会」では、第1問で「考え方A」「考え方B」に合致する内容を選ぶ問題、第4問・問4では、成年年齢の引下げの是非に関し

平均正答率は大学入試センターの資料を元に編集部にて集計して、反対の主張を導くために適切な資料の組合せを選ぶ問題などが出題されている。また、実施された地理歴史・公民の4科目において、数学や国語のような記述式問題はなく、センター試験同様、全問マーク式の選択問題であったが、選択肢を複数個選ぶ問題やすべて選ぶ問題が出題されている。

平成30年度試行調査に向けて

結果報告では、平成30年度試行調査(2018年11月実施予定)に向けて、4科目とも「正答率や得点分布のバランスに配慮した各設問の難易度の検討を行うとともに、問いかけ方の工夫や問題の分量(文章量、使用する資料の種類等)や、問題全体で問いたい知識・技能と思考力・判断力・表現力のバランスを検討していく。特に、学校の授業等における生徒の学習活動を想定した場面設定については、問題設定が複雑となったり、会話文等により文章量が増えたりすることがないように検討を行う」としている。

さらに、特に設問数について、「現代社会」では、「平成30年度試行調査に向けて、設問数を増やす方向で検討している」ことが、また、「世界史B」では、「試験時間に応じた望ましい設問数についても検討していく」ことが、それぞれ明記されている。

試行調査と実際の共通テストの問題構成等の関係

結果報告によると、「試行調査で出題される問題は、あくまでも検証のためのものであり、今回の問題構成や内容が必ずしもそのまま平成32年度からの大学入学共通テストに受け継がれるものではないという点に留意。実際の大学入学共通テストの問題構成や内容等がどのようなものになるかは、今回の試行調査の結果等を踏まえ今後更に検討されるものである」とのことである。